

新しい秋田へ。 共に、進もう。



PROFILE

宇佐見 康人(うさみ やすひと)

1984年4月2日生まれ、38歳。市立土崎南小学校(剣道部主将)、市立将軍野中学校(野球部主将)、県立秋田西高等学校(野球部投手)、秋田経済法科大学(現ノースアジア大学)法学部卒業。父親が経営する株式会社宇佐見経営に就職後、27歳で独立。起業家支援、地域活性化事業に携わる。31歳で秋田市議会議員選挙当選、35歳で秋田県議会議員選挙当選。現在は、県議会福祉環境委員会副委員長、自民党秋田県連総務副会長、同政務調査副会長。妻と3人の娘(7歳、3歳、1歳)。

秋田県議会議員候補者

うさみやすひと

証紙

秋田県議会議員の宇佐見康人です。この度、2期目の当選に向けて立候補しました。31歳で秋田市議会議員、35歳で秋田県議会議員にそれぞれ当選させていただき、これまで組織などには頼らず、地域の皆さま一人ひとりのお支えのもと活動させていただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

この4年間、秋田県議会議員として最も大切な「質問の場」に誰よりも立ち、当局の姿勢を正し、自信を持って振り返られる1期目を過ごさせていただきました。一方で、県政発展のために全力を尽くすなかで落選することがあったとしても、それはその時だなという気持ちも少なからずありました。

しかし、選挙に向けての活動を本格化させているうちに「もっと宇佐見を応援したい」、「もっと頼って欲しい」、「もっと宇佐見がやってきたことを他の人にも知って欲しい」、「秋田県の福祉のために絶対に勝ち上がらなければいけない」、「秋田の未来のためにあなたが頑張らなければいけない」、

「秋田港の発展のために頑張ってほしい」などの声をいただき、今までの気持ちが大きく変わりました。

特に、障がいを持つお子さまの保護者から電話をいただき、「あなたがいなくなったら、私たち弱い立場の人たちの声は誰が届けてくれるんですか?」と涙声で話された時には心から猛省しました。選挙や政治活動は自分だけが頑張るものではなく、応援・支援してくださる皆さまのための制度でもあるということを感じました。同時に、今までの議会活動が間違っていなかったのだと自信を持つことにもつながりました。

私には、秋田県議会議員としてまだやるべきことが残っています。子どもたちが夢を持てる秋田、若い人たちが挑戦できる秋田、先輩たちが安心できる秋田を創るために議会で働かせてください。

新しい秋田へ。共に、進みましょう。

宇佐見康人

一般質問・総括審査

登壇回数
No.1!

議員にとって一番大切な仕事は「質問」をすることです。この4年間で8回の一般質問と18回の総括審査に臨み、カーボンニュートラルに向けた施策、秋田港周辺の環境整備、ヤングケアラーへの対策、周産期医療の拡充、重度障がい児者への支援、子育て支援策の拡充に繋がりました。

秋田県子どもを虐待から守る条例

議員提出
成立!

自民党派で「児童福祉に関する勉強会(会長 竹下博英会長・幹事長 宇佐見康人)」を1年以上開催。そこで浮き彫りとなった課題に対応するため、議員提案で条例を制定しました。他党派との調整が難航しましたが、無事に成立。県内の子どもたちの笑顔につながるよう各種施策に反映していきます。

うさみやすひとは 安心と希望をつくります。



1. 物価高・エネルギー価格高騰対策

目の前の最大の課題である物価高、エネルギー価格高騰対策として、省エネ・クリーンエネルギーの利用促進、農林水産物の地産地消に取り組みます。また、中小企業の原材料費の上昇分の価格転嫁支援の提案、福祉施設などにはかかりまし経費の支援を行います。生活困窮者への支援としては、「緊急小口資金」「自律支援金」の活用を啓発します。



▲LPガス議連幹事長として視察

2. 子ども「ど真ん中」政策

これまで子どもの貧困対策、発達障がい児支援、ヤングケアラー対策、重度障がい児への支援、スクールソーシャルワーカーの拡充を実現しました。全議員の中で児童福祉に最も取り組んできた自負があります。福祉と教育の間で支援対象にならない子どもの問題、子育て施策に係る所得制限の撤廃などまだまだ問題は多く、その役目は私が務めます。



▲千秋公園にて娘と

3. 人口減少対策に全力投球

秋田県が抱える最重要課題は人口減少と少子高齢化社会の克服です。人口減少に歯止めをかける取り組みをオール秋田で取り組むことはもちろんですが、人口減少局面を前提とした施策も必要です。結婚・出産の支援、周産期医療体制の更なる強化、賃金水準の向上支援を行い、人口減少の歯止めと人口減少局面でも成長できる社会を構築します。



▲娘たちへの絵本の読み聞かせ

4. 若者と女性の活躍で持続可能な社会の実現へ

先輩たちがいつまでも安心して秋田に住み続けていただくためには、若者と女性の活躍は欠かせません。これまで働き方の見直しや産休育休取得の促進、学び直しの機会の拡充などを実施。持続可能な秋田、次世代に責任のある地域を残していくために、若者の起業支援、一人ひとりが選択できる子育て環境の整備、交通インフラの整備に取り組みます。



▲県議会と若者との意見交換会

5. 秋田の元気は港から！

秋田県全体の発展には物流・観光拠点を担える秋田港の振興が不可欠です。これまで、アクセス道路や洋上風力発電の整備、クルーズ船の受け入れ強化を目指した港湾整備計画、下新城地区工業団地や再エネ工業団地の整備に取り組んできましたが、さらに、自然エネルギーを活用した水素生成の拠点化など、新たな産業で経済基盤の強化に取り組みます。



▲秋田の元気は港から

6. スポーツで秋田を元気に！

夢と希望を与えてくれるプロスポーツチームの活動を県としても後押しできるように、新県立体育館(アリーナ)と新スタジアムの整備を促進します。それぞれのスポーツチームを秋田県の観光振興やプロモーションの重要なコンテンツ、準公共財として位置づけ、チームと秋田県が互いに高め合い、活用しあえる関係の構築を目指します。



▲プロスポーツは秋田の大きな可能性

7. 気候変動にも対応した農林水産業

一般質問で取り上げたことで、秋田県もカーボンニュートラルを宣言しました。気候変動は生活に大きな影響を与え、農林水産業への影響も顕著です。秋田県が日本の台所となれるように、先輩たちがつないでくれた宝をさらに育て上げ、新規就農者が希望を持てる攻めの農業を展開するとともに、気候変動の緩和策としての農林水産業支援も提案します。



▲若者の就農を促進します

8. 防災減災対策と東京一極集中の打破

新型コロナウイルスの蔓延で、サプライチェーンの脆弱性と東京一極集中の危険性が浮き彫りとなりました。東京一極集中の打破を目指し、製造拠点の県内回帰を支援します。また、大規模災害が発生することを想定したリスクコミュニケーション教育の強化を行うことで、自助、共助、公助を基本とした防災減災教育にも力を入れていきます。



▲コロナ禍での要望を直接知事へ

